

# 1. 第1回「避難者のつどい・福井」を終えて—公式記録—

【日時】平成23年7月31日(日) 10:00-16:00

【会場】仁愛女子短期大学

【参加避難者数】13名(うち子供7名)あとに来た方も含む

【参加スタッフ数】約80名

【よろず相談】10:00-12:30@B201 学生ホール、ピアノ練習室

- ・ エコノミー症候群検査 福井県済世会病院放射線部 坪内啓正他
- ・ 体調不良全般 救命救急部医師 山本 篤史
- ・ 子供・産婦人科 助産師 三反崎 宏美
- ・ 心の問題 精神科医師 新井 芳行
- ・ お悩み相談・心の問題 犯罪被害相談員 川端 洋子
- ・ 心の相談 産業カウンセラー 中村 まゆみ
- ・ 就業の相談 キャリアコンサルタント・ファイナンシャルプランナー 柳沢
- ・ 雇用関係 社会保険労務士 田辺 正樹
- ・ 法律全般 弁護士 松平 光隆
- ・ 高齢者・障害関連相談 看護師 嶋田 泰代
- ・ 子育て相談 とんとんキッズ 林恵子
- ・ 司法書士会 神田芳明、土田康博
- ・ 土地家屋調査士会 岩坂昭宏、錦織勝一
- ・ 社会保険労務士会 田辺正樹
- ・ 行政書士会 川端耕一、長谷多祐、今村嘉弘、和田裕一、田中弘幸、小畑喜代治、嶋本正昭
- ・ 相談仕分け 竹内行政書士事務所 竹内陽一

※ 各分野のスペシャリストの方々に会の趣旨に賛同し、お集まりいただくことができた。

【子ども元気村】@B211 学生ホール

- ・ ドミノたおし 福井大学遊房
- ・ 木工遊び NPO 法人自然共学センター
- ・ スマートボール、空き缶釣堀 NPO 法人福井県子ども NPO センター
- ・ 読み聞かせ 越前市 東
- ・ ※こじんまりとした空間で、和気藹々とした楽しいコーナーがつけられた。

【福腹グルメ】@食堂、食堂南テラス

- ・ そば、カキ氷、風船 福井あじさいロータリークラブ



よろず相談コーナー



個別相談室



子供元気村



福腹ぐるめ

- ・ カレー、おにぎり、つせもの 山代エンジェル隊  
※材料提供 カワグチミート、川崎葉子、吉備高原ファーム
- ・ 流しそうめん 福井県建築士会
- ・ お菓子提供 大阪吉寿屋（よしや）
- ・ パン提供 早起きパン屋さん
- ・ 飲み物提供 福井県民せいきょう



福腹ぐるめ

※おもてなしする側が、おもてなしを受ける側よりずっと多いという状況をやや残念がる声は聞かれたが、スタッフの誠意と真心あふれるサービスは、他のスタッフを感動させるほど、魅力的だった。

#### 【交流会前半】 13:30-14:30 @B203

- ・ ファシリテーター 川崎葉子
- ・ 記録 内山代表
- ・ 参加者 避難者 5名

内容的には、交流会後半の第一ラウンドにひとりずつ話された 3.11 から福井にたどり着いた経緯と思いについてうかがった。時間も限られていたので、その話を後半の交流会で話すことについて了承を得た。

(※大河内さんが、子育て世代のネットワークの必要性を力説されていたが、後半の交流会では口を紡いだのはなぜか？気になる。)

※約 30 分プレスの取材なしで、意見交換を行った、



交流会後半

#### 【交流会後半】 14:30-16:00 @学生ホール

- ・ 総合司会 内山代表
- ・ コーディネーター 川崎葉子
- ・ パネリスト 避難者 5名

※前半は、パネリストの話をつき出し、後半は、フロアから参加スタッフの意見を聞いた。

※プレスも交え、みなさんに広くアナウンスしたい意見の発掘、共有が行われた。

※このような交流会について、参加した避難者は総じて好意的であり、交流会の他地域での開催等の要望の声があった。

#### 【受付、案内】

- ・ 上野麻樹、大久保(松原美容院包括支援センター)、中田（仁短）、福大学生 2名  
(受付から会場までお話ししながら案内)
- ・ 駐車場から受付までの案内は、菊地先生+福大学生 1名

※駐車場から受付、受付からメイン会場まで参加者を誘導するシステムは、うまく機能していた。

## 2. ボラ参加された方へのお礼メール(内山発)

本日ご参加、ご支援いただいた皆様へ

本当にご苦労様でした。

避難されている方：13名（うち子供7名）

ボランティアスタッフ：80名以上（100名以上かも？）

今回は避難者の皆様への告知が遅れたこと、同じ日に他の招待イベントなどに流れたことなども手伝って、参加者数が非常に少なく、特に各コーナーをすべて自費で担当いただいた皆様の熱い想いを十分に発揮することが出来なかったのでは？と、お詫び申し上げます。

人数は少なかったのですが、最後の避難者の方に全員登壇していただいた交流会は充実したものでした。

自らも双葉町で被災され、本県に避難されているながら、避難者同志のネットワークづくりに奔走されている川崎葉子さんのコーディネートで、それぞれの方があの日、放射能という見えない魔物から逃れ、福井にたどり着いた経緯などをお話いただき、涙腺が緩んでしまうご苦労話や笑いありでした。14:46に東北に向かって黙祷。後半は、今必要、会場のボランティアスタッフの皆様からは「こんな支援が出来るよ」という力強いコメントを交えて意見交換をしました。

終了後、「私が目指していたネットワークづくりがここにあった」と川崎さんと抱き合っただけで涙していた避難者の方の言葉、欠席と返事したけど車で駆けつけて、自主避難なので情報が全くこなくて深い孤独感にさいなまれている子育て中の女性の訴えが、この取り組みの意義を物語ってくれていると確信しました。

皆様、この取り組みは、今回限りではありません。今回の取り組みを謙虚に振り返り、来ていただけなかった方々に来ていただける環境づくりを考えながら、近いうちに地域を変えて開催したいと考えています。日時内容が決まりましたら、お知らせしますので、ご理解、ご協力、そしてご意見をお願いします。

また、特に今回ご参加いただいた方には、このメーリングリストでご感想、ご意見（苦言も歓迎します）をいただければ幸いです。（深謝）

## 3. メール等でお寄せいただいた意見・感想

- 
- **今後の足がかりに**：必要性を確信でき、避難者も支援者も、足掛かりとなる大きな第一歩を踏み出せたと思います。準備や色々な試行錯誤、本当にお疲れ様でした。（乾）
  - **ボラへの理解**：昨日は結構TV見たよ～とか反応がありました。あれから町費の集金をしていて、近所に午前中手伝って下さっていた方がいたことが判明。その方も話からは、やはりボランティアの人数が圧倒的に多かったのに違和感を覚えたような雰囲気がかえりました。そういう集まりだよ、とアナウンスが届いていればよかったのですが、ML登録等状況把握している方が会の代表だけだとなかなか難しいですね。内山さんのありがとうメールも、会の参加者隔々まで届いていたらいいなと思っています。（乾）
  - **親の声に涙**：絵本をよんだり、読んでもらったり、子どもたちと他のコーナーでも遊びました。出版社から預かった本も手渡すことができ、喜んでもらえました。交流会では、「絵本と子どもの下着を持って避難しました」との声に涙しました。今後も絵本で支援していきます。小

さな力ですがよろしくお願いします。(絵本の東)

- **地元紙功奏**：今回は皆さんに相談もせず東北地方の新聞を用意しました。敦賀のお二人のおばあちゃんが福島に行った人から「お土産なにがいい？」と聞かれるんだけど「新聞を持って帰って」と頼むんだそうです。インターネットができない世代は多分、故郷の新聞なんか読みたいたろうなと思い急きょ準備しました。「ビンゴ！！」でした。喜んでもらってよかったです。福腹グルメもこれと言ったトラブルもなく皆さんに喜んでいただけたと思っています。それでは2回目に向けてまたがんばりましょう。(橋本)
- **ゆったりゆっくりが力に**：こども元気村で、こどもたちとゆっくり過ごしていたお母さんがたが、「ゆっくりできてありがたい」と言っていました。安心感があり、楽しく、こどもを見守る目があり、お母さんがたもゆっくりできるような場が望まれるということを感じました。避難者の方々がつながり、避難者と支援する思いをもった方々がつながり、そして、支援する思いをもった方々同士もつながり、みんながつながりを感じる事ができたつどいだったと思います。次のつどいもがんばりましょう。(辻)
- **避難者MLの必要性**：昨日のつどいの中に、今後、避難者 ML が必要だと実感しました。ML 使える方は比較的若い世代が中心になりますが、でもその世代が、一番切実な課題を抱えて何とかしたいと思っているはずです。ML だと参加者対象には簡単なアンケートも取りやすくなりますし、出欠確認も可能になります。次回のつどい開催の案内（第 1 回の新聞記事も同封しましょう）と一緒に ML への参加お知らせも入れてはどうかと思います。8/3 に議論しましょう（内山）
- **主演女優達は満足**：敦賀からの女優二人は、とても喜んでくださり、連れていく事ができて本当によかったです。皆さんの、ご苦労にも感謝されました。(きらきらくらぶ林恵子)
- **お年寄り幼児対応不十分**：私はお年寄りを連れていたので、やはりエレベーターがないこと、段差が多かったことは大変だった。それは、ベビーカーのお子様連れも同じでした。赤ちゃんを予想すれば、畳か絨毯のハイハイスペースがあるとリラックスできたと思いました。
- **相談コーナー窓口は見えるところに**：やはり見えるところにしっかりとあるとよかったと思いました。どうしても難しいことは奥に入るとして…(きらきらくらぶ林恵子)
- **今後とも協力**：良い経験をさせていただきました。交流会に参加できず、残念でした。私たち、福井県内科医会の会員は福井県の全ての市町村にいますので、お困りの方がいらっしゃいましたら、是非お声がけください。近くの先生を紹介させていただきます。また私にできることがございましたら、何なりとご用命ください。(あらい内科クリニック新井)
- **【NGOの立場から】**昨日は外部からの訪問にも関わらず、ご丁寧にご対応下さり、誠にありがとうございました。被災者同士のネットワーキング、相談会運営といった支援策についていろいろと有益な情報をいただき、たいへん参考になりました。被災者の方の生の声もお聞きすることができましたが、やはり想像以上のつらさを抱えておられる状況ですね。兵庫県にも避難者はいらっしゃいますが、残りの人生を避難先で過ごすとしても、何かしらそこで希望を見いだしていただけるような活動ができればと思いました。当面は、たわら屋さんに粉ミルク等の物資をお送りさせていただくことになると思います。(先月、川崎さんに野嶋先生をご紹介いただき、送付させていただいたのがきっかけです) またお世話になる機会があるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。(被災地 NGO 協働センター岡本千明)

- **【参加人数】**: 当初想定していた 100 名を大きく下回り 20 名弱であった。同時に行われていた福井葵ライオンズクラブの小次郎の里での BBQ には、約 60 人の避難者が集まったとのことで、各団体との調整、アナウンス時期について、やむを得ない条件はあったが、改善の余地はあった。(栗本)
- **【アンケート回収率の低さは？】**: アンケート葉書の回収率が約 10%と異常に低かった理由が不可解であり、理解しがたい。(栗本)・
- **【駐車場から受付への案内】**: すばらしい案内ができた(菊地先生と男子学生の 2 名)(栗本)
- **【受付】**: 学生 3 名、社会人 2 名でスムーズに実施された。参加人数が少ないこともあり、受付から B201 への案内もスムーズに行われた。(栗本)
- **【スタッフ名札】**が不足した。(栗本)
- **【コーナー打合せ】**8 時の全体説明のあとのコーナーに内山が不在だった(福井市内の欠席者に電話を掛けることを優先してしまっただが、各コーナーに問題は発生しなかったか?)
- **【よろず相談】**当初、最初から個室(ピアノ練習室)での相談を想定していたが、B201 でまず相談、込み入った話の場合、個室へという流れに、当日、参加者(相談の受け手)で変更した。避難者の数に比して、相談の受け手が多く、大変申し訳ない状況であったが、不満の声は耳に入らなかった。  
よろず相談のカルテは作成したものの、ほとんど回収できなかった?  
避難者向けに作成したアンケートもほとんど回収できなかった?(栗本)
- **【子ども元気村】**とてもフレンドリーな雰囲気、すばらしかった。やはり、避難者の数が少なかったことが悔やまれる。(栗本)  
今回、7/29 に県費連が乙坂さん関連の一時避難の子供たちがこちらに来るという情報が入り、その対応を検討した結果、殿下の件に準じてお断りした。そのあと彼らとギクシャク。川崎さんの意見も聞くべきだった。(反省ざるの内山)
- **【福腹グルメ】**そば、カキ氷、カレー、おにぎり、流しそうめん、どれも真心と誠意が感じられ最高だった。スタッフの数は必要最小限にすることも重要ではなかったかと思う。(栗本)
- **【交流会】**医師や士族の相談者のみなさまの感想や意見を聞きたかった。スタッフ間(スタッフ代表間)の交流会を「つどい」終了後、行えるとよかったと思う。(栗本)
- **【その他、会場設営等】**スタッフは名札、避難者は何もなし。やはり、避難者の方を見分けにくく、なんらかの改良が望まれる。(栗本)
- **【アナウンス】**「11:30 分になりました。食堂で福腹グルメ開店です」など、会場全体に聞こえるアナウンスがあるとよかった。栗
- **【早く帰るコーナーへの対応】**飲食関係の参加スタッフは、途中で帰ることになるため、御礼の言葉をしっかりとしたかたちで求める声があり、急遽、食堂で内山代表と川崎さんが、あいさつ等を行った。(医療スタッフや士族の相談スタッフについては、内山代表、川崎さんが個別にお礼に廻った)。食堂での挨拶は想定外だった。(栗本)

□ 【まとめ:林さん】

今回の「避難者のつどい」は、福島第一原発事故による放射能汚染によって避難された方々のネットワークを作ることが主な目的です。

福井県内に避難されている方々は県のまとめによると約 500 人（約 200 世帯）であり、「避難者のつどい」への参加者は多いとは言えないのは事実です。しかし、今回は欠席する旨を伝えていただいた方々や事前の「生活上の困り事アンケート」に答えて下さった方々のことを思いながら、次に繋げていかなければならないと考えています。何より、つどいでは避難されている方が「私たちが求めていたネットワークがここにあった」と述べられたこと、交流会の全体会では福井県民の私たちも一緒になって同じ時と場を共有できたことなどを素直に良かったと思っています。また、支援者が多かったことは福井県民の気持ちの表れであり、プラスと考えています。

このような中、ようやく 3 月 11 日から 5 ヶ月が経過しようとしています。目に見えない放射能から避難する生活が何時まで続くのか誰も予測できません。そして、福島未来を築く子どもたちのサマーキャンプも福井県内各地で取組まれています。

これから、できるだけ安心して福井で生活していただけるように、また、的確にニーズに応えられるように「ひとりじゃないよ PJ・福井」は支援の体制を強化しながら活動していきます。

